

pârkâble

パーカブル

こおりやま公民協奏
エリアプラットフォーム連携ビジョン





こおりやま公民協奏
エリアプラットフォーム連携ビジョン

もくじ

1 parkable とは？

- 2. what is parkable?
- 3. parkableの定義
- 4. 連携ビジョンを策定するまでの背景
- 5. 令和7年度parkable実施概要と結果

2 parkable 4つの戦略

- 8. 戦略レイヤー4本柱
- 9. フィールド拡張戦略
- 11. コンテンツ戦略
- 12. コミュニティ&連携戦略
- 13. データ&マネジメント戦略

3 連携パートナー構想

- 14. 公民連携(行政 × エリブラ)／地元事業者連携(商店街同士を繋ぐ)
- 15. 文化・教育機関との連携／民間クリエイター・大学・専門学校・企業との連携
- 16. 歴史・文化資源との連携

What is parkable?

まちが公園になる。歩けば、出会いが生まれる。
～歩けば、郡山がもっと好きになる～

「まちを^{ひら}拓いていこう」

『parkable(パークابل)』とは、郡山駅西口エリアを「公園」のように誰もが自由に過ごせる場所へとアップデートしていく取り組みです。

公園には、目的がなくても立ち寄れる気軽さがあり、過ごし方も決められていません。ベンチで本を読む人、待ち合わせをする人、ペットと散歩する人、ただ景色を眺める人——。そんな多様な関わり方を許容する「余白」こそが、まちの豊かさにつながると私たちは考えています。

これまで郡山駅西口エリアは、交通と商業の要衝として、人が安全かつ効率的に行き交う空間として整えられてきました。

その役割を十分に果たしてきたからこそ、これまでは「ただ滞在する」という時間が少し足りていなかったのかもしれません。

だからこそ、多様な主体が連携し、このエリアが公園のようにさまざまな関わりを受け入れる場所へと変わっていかれたらと考えています。

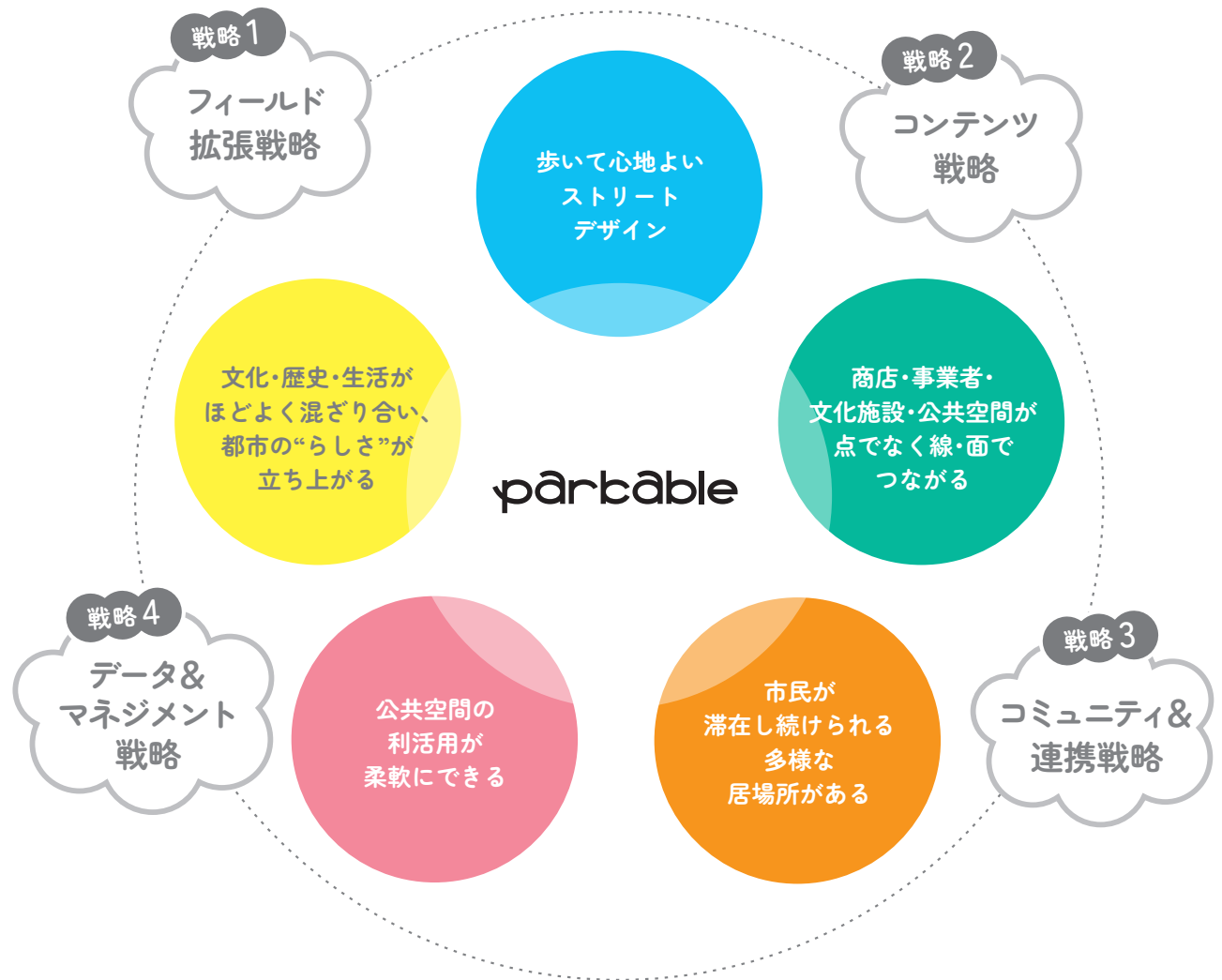
『parkable』の目的は、新しい施設(ハード)をつくることではありません。あらゆる人がまちを自由に行き交い、滞在し、思い思いに関わることができるように。

郡山駅西口エリアを「みんなの公園」としてひらき、「あるいて たのしむ こおりやま」を目指していきます。



parkableの定義

4つの戦略
×
5つの目標
＝
parkable



連携ビジョンを策定するまでの背景

郡山駅西口エリアは・・・

エリア内の各地区が連携し
お互いに磨き合いながら発展

ヒト・モノ・情報のハブとして
様々な交流拠点であり連携の場

エリア内外の連携を発展させることで
新たなつながりが自然発生する
プラットフォームとしての機能を担う

一方で・・・

少子高齢化
空き家・空き店舗の増加
モータリゼーションの進展

人と人のつながりが希薄化、
まち全体での連携が重要

こおりやま公民協奏エリアプラットフォームでは、令和7年度にフロンティア通りでparkableを実施。
ストリートファニチャーの設置やまちなかで活躍される方々に出店いただき、昼夜の過ごし方の違いや居心地の良さを調査した結果、
この郡山駅西口エリアが交流・連携の舞台となることでエリア価値向上につながると考え、この連携ビジョンを策定しました。

令和7年度 parkable実施概要と結果

【概要】

まちを「パーカブル」にする社会実験、はじまります！

こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム「こおりやま まちなか社会実験」

parkable
パーカブル

まちなかを、みんなの“公園（パーク）”のような場に。
 駅前のまちも、誰もが楽しい、くつろげる憩いの空間の場へ。
 「こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム」では、
 市民・企業・行政・地域団体が手を繋ぎ合い、これからの公共空間のあり方を考える社会実験を行います。
 今回のテーマは「まちなかパーカブル計画」。
 駅山の中心市街地を、"parkable(パーカブル)"
 つまり、公園のように心地よく過ごせるまちへと変えていくためのトライアルです。
 参加は、駅山駅前一丁目「フロンティア通り」
 最寄り駅前に立ち寄り、思い思いに過ごせる駅前空間を体験して、
 マーケットやワークショップを通じて小さな実験を重ねていきます。
 日常の中に新しい「まちなかの景色」を一緒につくっていきましょう。

2025
11/8 sat
12:00-18:00
郡山フロンティア通り

【主催】こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム 【共催】郡山市都市環境部都市政策課
 【お問い合わせ】こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム運営事務局 一般市民＆人づくり推進課 info@kooryama-arpatform.jp

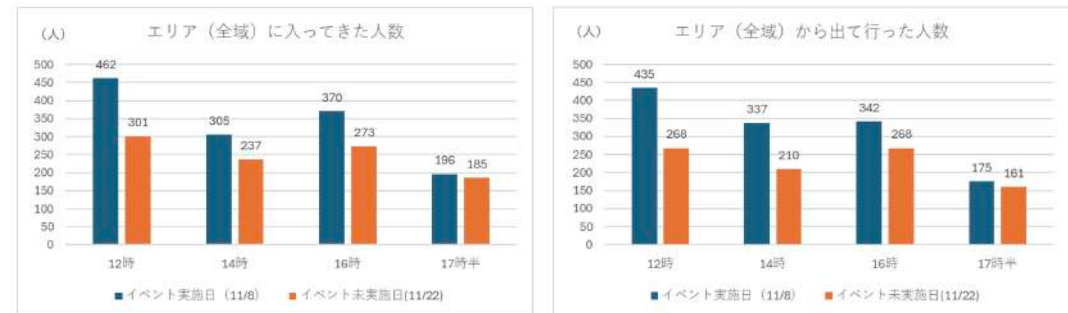
実施日：令和7年11月8日(土)12:00～18:00

場 所：フロンティア通り

内 容：マルシェの開催やストリートファニチャーの
設置などを通じて、通行量や滞在時間に
どのような影響を及ぼすか検証

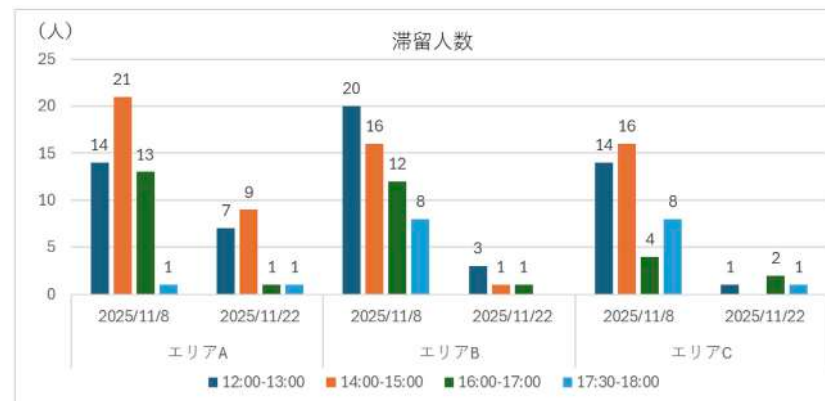
【結果】

通行量調査



エリア全体において、イベント実施日の方が未実施日と比べて、12時の時間帯で最も差があり、入ってきた人数は1.53倍、出て行った人数は1.62倍になっている。また17時半の夜の時間帯は、大きな差が見られなかった。

滞留時間調査

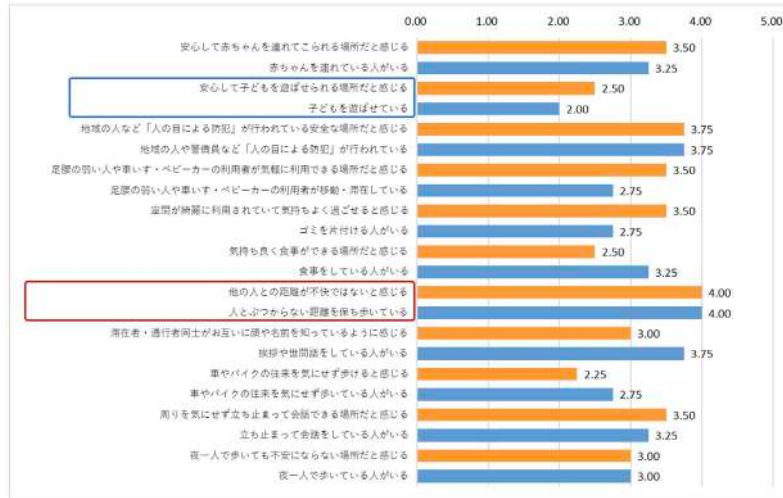


滞留人数は、どのエリアも12時台及び14時台が多く、夕方になるにつれて減少傾向にある。またイベント実施日(11/8)の方が未実施日より、滞留の人数は多い。

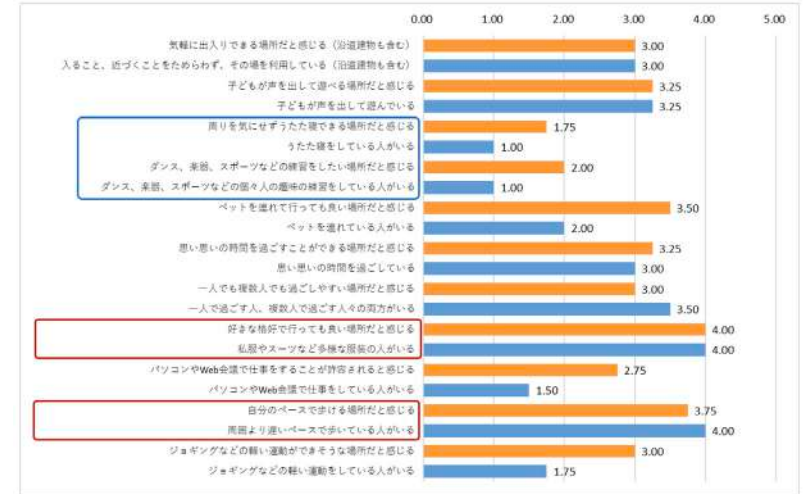
令和7年度 parkable調査実施概要と結果

居心地の良さをはかる指標の調査

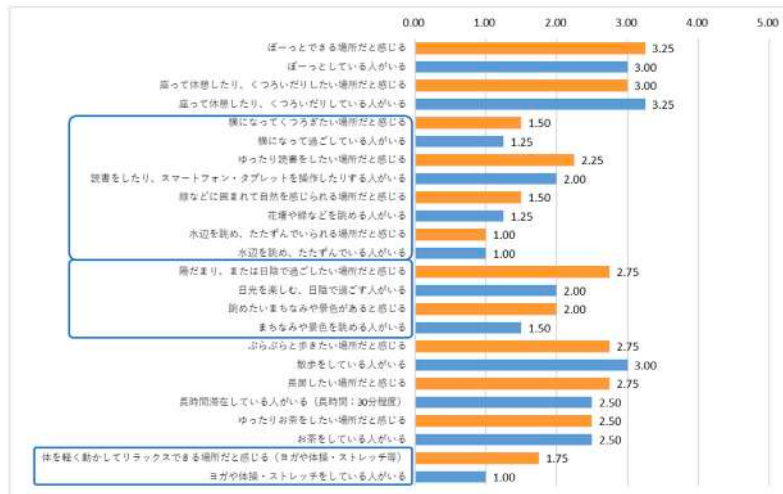
■安心感



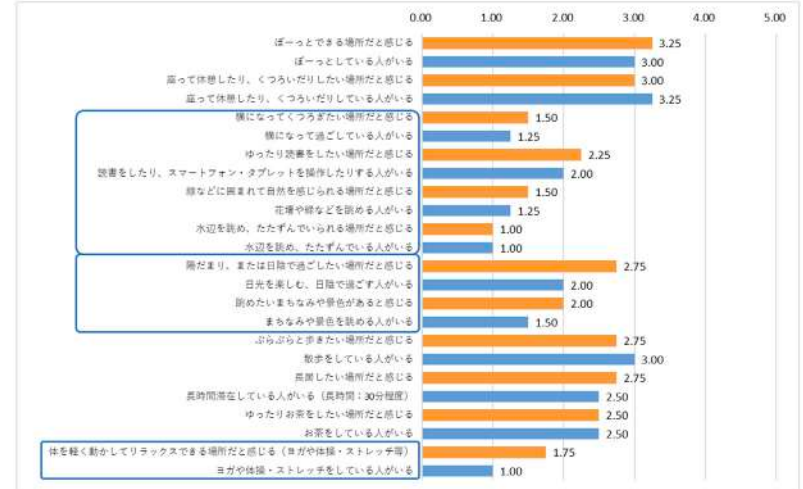
■寛容性



■安らぎ感



■期待感



令和7年度 parkable調査実施概要と結果

調査結果から読み取れる全体像

■全体的な傾向

フロンティア通りは「通過動線」から「滞在空間」へ転換できるポテンシャルを有する。

マルシェ＋休憩空間（ストリートファニチャー）の設置により、通行量の増加・滞留時間の延伸・居心地評価の一定の向上が確認された。

特に昼間（12～14時台）に効果が見られ、夕方以降は時間制約が強い傾向があった。

主な課題

① 時間帯による使われ方の偏り	② 「やすらぎ感」の評価が相対的に低い	③ 点的活用に留まっている	④ 認知・継続性の課題
・昼間は立ち寄り・滞在が増加 ・夕方（17:30以降）は通行優先となり、滞在が生まれにくい <課題> ・時間帯に応じた空間演出（光・雰囲気）が不足 ・夜間の「過ごしたくなる理由」が弱い	・居心地指標では「安心感」は高評価だが、「やすらぎ感」が最も低い <課題> ・緑陰や日なた／日陰の選択、座り心地、落ち着ける空間の不足 ・鳩の糞、清掃・環境管理面への不満が顕在化	・店舗・ファニチャー・屋台の配置が「やや分散的」との出店者意見あり <課題> ・通り全体としての一体感・回遊性がまだ弱い ・「目的地の途中の立ち寄り」で「目的地」とはなっていない	・来訪者、出店者ともに満足度、参加意欲は高い ・一方で「告知不足」「回数を重ねる必要性」が指摘されている <課題> ・単発イベントに留まると定着しにくい ・情報発信、継続実施の仕組みが必要

戦略レイヤー4本柱

戦略1

フィールド拡張戦略(どこをparkableにするか)

戦略2

コンテンツ戦略(そこで何をするか)

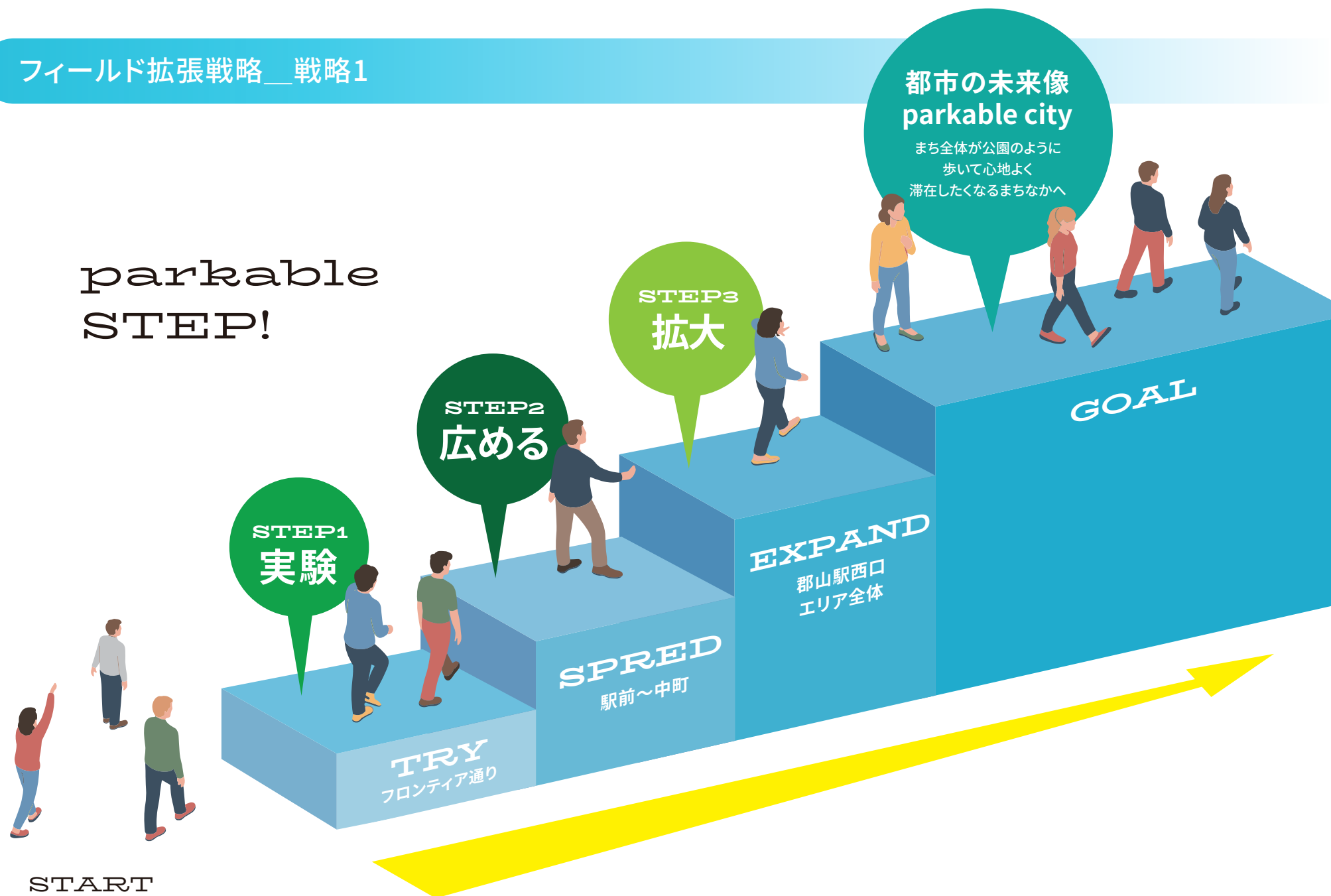
戦略3

コミュニティ&連携戦略(誰と一緒にやるか)

戦略4

データ&マネジメント戦略(どう改善し続けるか)

フィールド拡張戦略__戦略1

parkable
STEP!

フィールド拡張戦略__戦略1

STEP1

TRY

[実験]

対象: フロンティア通り
約200m (駅前・parkable実験区間)

アクション
プラン

1. 実験区間を「常設感のあるラボ」にする
2. ファニチャーの常設に向けた社会実験
3. 道路占用の標準オペレーション
(申請フロー、図面テンプレ)を整える
4. 歩行者と車の共存ルールを検証
5. 時間帯部分歩行者優先
(例: 週末・特定時間帯)などの社会実験
6. 「駅前から中町への導線サイン」を試作

STEP2

SPREAD

[広める]

対象: 駅前～中町

アクション
プラン

1. スクラブル交差点から中町への入口を
ゲートとしてデザイン
2. なかまち夢通りとフロンティア通りの
同時イベント
3. 大町までのルートの確立
4. 日の出通り線・ペDESTリアンデッキを活かした
parkableルートの確立

STEP3

EXPAND

[拡大]

対象: 駅前～中町～大町～本町・清水台までの
parkableルート

アクション
プラン

1. 「parkableルートマップ」の公式化
2. 奥州街道ストーリーと連動したルート
(駅前⇄本町⇄清水台)の確立
3. KORIYAMA VISION BOOK
あるいて たのしむ こおりやまを体験できるイベント
4. 本町～清水台へ「暮らしと文化」をテーマにした
歩行体験の設計

コンテンツ戦略 戦略2

中町を「お試しコンテンツのステージ」

- 平日昼／キッチンカーにてワーカー向けの
テイクアウト・ランチ出店
- 夕方～夜／アフターファイブの屋台・立ち飲み・軽食
- 週末／マルシェ、子ども向けワークショップ、
音楽・パフォーマンス等のイベント

駅前～中町への連動

- 駅前と中町で同時イベントの企画
例) 駅前ステージ＋中町マルシェ、parkable屋台
- 奥州街道がテーマの「まち歩き回遊イベント」

4つのエリアを横断するコンテンツ醸成

- 本町：暮らしと商いのオープンアトリエ・路地市
- 清水台：神社などを起点にした夜市や読書散歩
- 大町：駅近再開発エリアを活かした地域マーケット
健康・医療テーマのイベント

コミュニティ&連携戦略__戦略3

各エリアの実情に応じたエリアチームを組成し、「こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム」と密接に連携しながら『parkable』の取り組みを推進します。さらに、地域住民や民間企業をはじめとする多様なステークホルダーとの共創（協働）を図り、持続可能な事業展開を目指します。



データ&マネジメント戦略__戦略4

KPI候補(測定指標)を以下のように設定し、毎年度評価検証レポートを発行

歩行者・滞在

歩行者数(昼・夜)

滞在時間(平均)

年齢層比率の変化

連携・参加

関与する事業者数

市民参加者数

協働した文化施設・大学・専門学校の数

定性評価

アクティビティ調査(行動観察)

プレイスゲーム(市民参加型評価)

居心地指標(来場者アンケート)

空間活用

公共空間利用回数

ファニチャー利用率

出店・イベント回数

認知・発信

snsでの“parkable”投稿数

地域メディアでの掲載数

1. 公民連携（行政 × エリプラ）

道路占用等の許認可など、公共空間の活用には行政との連携が不可欠。都市再生推進法と連携してエリプラが行政との窓口機能を担い、民間主導の実験を継続的・迅速に展開できる仕組みを構築する。

連携内容

- ・歩行者空間化の検討（期間限定 → 常設化のロードマップ）
- ・ベンチ、テーブル、緑化プランターなど、フロンティア通り等への簡易設置物の常設化を念頭にした社会実験の実施。
- ・歩行者利便増進道路（ほこみち）制度の活用を視野に、占用申請の手続き簡素化とガイドライン整備を行政と共同で進める。
- ・行政の都市再生整備計画との接続（ウォークابل推進）

2. 地元事業者連携（商店街同士を繋ぐ）

各商店街・店舗が個別に動くのではなく、エリプラが横断的なコーディネーターとなることで、エリア全体で「人が回遊する」シーンをつくる。parkableで育ったつながりを、継続的な共同活動へと発展させる。

連携内容

- ・大町、本町、中町、清水台の4エリアを横断し、公共空間を活用したマルシェ、マーケットの定期的な実施
- ・ストリートファニチャーの維持管理と活用の協働
- ・商店街×エリプラで大町、本町、中町、清水台の「4エリア回遊マップ」を制作、配布し、周遊性を可視化する
- ・商店街、店舗等との共同企画として、フロンティア通りを軸にした連動イベントを年複数回実施する

3.文化・教育機関との連携

博物館・美術館・図書館・公民館などの文化・教育機関は、まちなかの重要な回遊拠点。エリプラがこれらの機関と連携することで、「歩いて文化に出会える」体験を設計し、滞在時間の延伸とエリア全体の魅力向上を図る。

連携内容

- ・文教施設等と連携した奥州街道沿いから中町・清水台を結ぶ「文化散歩」プログラムの設計。
- ・読書イベント等と連動した、街に点在する本棚企画などを実施する
- ・文化施設周辺の公共空間を活用し、中町への歩行導線づくりを進める

4.民間クリエイター・

大学・専門学校・企業との連携

まちづくりの質と継続性を高めるため、デザイン・データ・実験の各領域で専門性を持つ民間クリエイター・大学・専門学校・企業と連携する。イベントや企画の「実装力」を支える。

連携内容

- ・データ分析(歩行者カウント、滞在時間、属性分析)
- ・クリエイターとのデザイン協働(サイン、ロゴ、ビジュアル)
- ・市内外の多様な大学・専門学校との共同研究(都市デザイン、行動分析) 実証協力
- ・地元企業のcsr参画(サポーター制度、協賛)による継続的な運営基盤の確保

5.歴史・文化資源との連携

奥州街道の物語を郡山の都市体験に再編し、"歩く必然性"をつくる。郡山の歴史・文化資源をエリアの回遊軸として位置づけ、市内外からの来訪者が「あるいて たのしむ」まちの骨格をつくる。

連携内容

- ・奥州街道をテーマにした散歩ルートの整備、周知
- ・歴史コンテンツの制作、展開（案内サイン、ストーリーマップ、デジタルコンテンツの活用）
- ・観光資源との接続（駅前で完結しない回遊づくり）

その他、他地域との事業連携

- ・首都圏、東北を中心とする先進的なエリアプラットフォームとのノウハウ共有、相互連携
- ・全国のウォーカブル推進都市との情報交換、視察連携



発行元:こおりやま公民協奏エリアプラットフォーム

発行日:2026年3月

